

作文の部

優秀賞

建設業の3K

愛知県立一宮工業高等学校 建築科 2年
久保田 海 志

僕は、工業高校で建築科を履修している2年生です。僕が中学3年生の頃、建築業には全く関心がありませんでした。本校に入学した理由も、部活動をやりたかったというとても単純なことでした。また、当時の先生には建設業は、「危険で、汚く、キツイ」と言われていました。そんなこともあって、中学生の頃の僕は建設業に良い印象はありませんでした。それだけでなく、不良マンガのほとんどに主人公の身近な人が建築関係の仕事をしていたりなど、僕の中では怖い印象も強かったです。

工業高校の建築科を履修するようになって、僕の建設業に対するイメージががらっと変わりました。学校で習うことはとても面白く、やりごたえがありました。しかし、危険な道具などはたくさんあります。正しい使い方をすればケガはほとんどしません。また、現場を見学に行ったときはとても驚きました。中学の先生が言っていた「危険で、汚く、キツイ」ということも、実際そんなこともなく、とても整理されており、安全性も高まっていて、ほとんど臭いがしませんでした。

しかし、僕は思いました。今の建築現場はとてもキレイにされているのに、どうしてそんな「危険で、汚く、キツイ」と思っているのか。どうして「危険で、汚く、キツイ」と思われるようになったのか。僕はそこが気になっていると調べてみました。

僕たちの親の世代は、建設業は「危険で、汚く、キツイ」という3Kというイメージが強くて仕方ないと思います。しかし、今の建設業の取り組みを知らず、昔のイメージを僕たちの世代に伝えていくのはどうかと思います。だから、このままでは建設業のイメージは「危険で、汚く、キツイ」という昔の3Kを次の世代へと伝えてしまうのではないかと思います。

しかし、建設業協会が何も対策をしていないわけではありません。工事現場の環境に気をつけたり、労働者の社会保障などさまざまなことを良くしようとしています。では、なぜこのような対策をしていることをみんな知らないのでしょうか。

僕はこのように考えました。

1つは、工事現場の環境、労働環境などが良くなっているということをあまりアピールしていないのではないかと。昔と比べられないほど建設業は良くなっていると知ってもらえれば、きっと「危険で、汚く、キツイ」というイメージはなくなっていくと思います。

もう1つは、若者にもっと建設業に興味・関心を持ってもらう。興味・関心を持ってもらわないことには、どれだけ環境を良くしようとしても建設業のイメージアップには、つながらないと思います。

僕も中学生の頃は、建設業にあまり良いイメージはありませんでした。しかし、工業高校に入学して建設業に関して学ぶことによって、建設業のイメージは随分変わりました。だから、よりたくさんの人に建設業に関して、興味・関心を持ってもらうことがイメージアップにつながると思います。そして、「危険で、汚く、キツイ」という昔の3Kを帰る必要があると思います。

例えば、2011年に起きた東日本大震災の時です。津波によって瓦礫の山と化した東北に建設業者は重機を運び、瓦礫を処理したりなど復興のために必死で作業していました。

僕はこのことを知って建設業の3Kは「感動、感謝、貢献」という言葉が一番良いのではないかと思います。感動を与えるものを創り、感謝されるような仕事をし、社会に貢献していると知ってもらえれば、きっと建設業に関心を持ってもらい、そしてイメージアップになるのではないのでしょうか。